

活用効果評価結果

平成28年度

中国地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報		開発目標															省力化、品質の向上		
新技術登録番号		KT-100010-VE					区分			工法			有用な技術の位置づけ		無し				
分類		共通工 - 擁壁工 - 石・ブロック積(張)工 - コンクリートブロック工																	
新技術名		自立型間知ブロック積工法 (裏型枠を必要とせず胴込(裏込)コンクリートを打設できる自立型間知ブロック積工法)																	
比較する従来技術(従来工法)		コンクリートブロック積工法																	
新技術の概要及び特徴		本技術は、間知ブロックの背面に正面壁と同等の背面壁を設けたH型形状の自立型間知ブロック積工法である。従来は、コンクリートブロック積工法で対応していた。本技術の活用により胴がい・尻がい及び裏型枠が不要となり施工性と品質の向上が期待できる。																	
活用効果評価	所見	<p>[経済性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本技術の経済性については、従来技術のコストに対して同等である。 <p>[工程]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立型の間知ブロックで、2~3段の胴込めコンクリート打設を1回で施工できることから、工程の短縮が図れる。 <p>[品質・出来形]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2~3段の胴込めコンクリート打設を1回で施工できることから、打ち継ぎ面が少なくなり、壁体の一体化が図られ、品質・出来形に優れる。 <p>[安全性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本技術の安全性については、従来技術に対して同等である。 <p>[施工性]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立型の構造で胴がいや裏型枠が不要となることから、施工性に優れる。 <p>[環境]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本技術の環境については、従来技術に対して同等である。 																	
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果は安定している。また、従来技術も妥当と判断できるため継続調査は実施しない。よって、次回以降の評価は不要とし、情報識別記号「-VE」とする。 															<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p>		
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 2~3段の胴込めコンクリート打設を1回で施工することから、コンクリート打設時のブロックの挙動に注意する必要がある。 																	
	当該技術における改良点及び要望	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 																	
活用効果調査結果	対象工事	1	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型	
		2	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		3	下部工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		4	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		5	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		6	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		7	堤防強化対策工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		8	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		9	堤防強化対策工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		10	築堤工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		11	環境整備工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		12	地盤改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		13	道路改良工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		14	堤防整備工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
		15	堤防整備工事														従来技術: コンクリートブロック積工法	施工者希望型(契約後提案)	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)
	施工時評価	経済性	C	C	C	C	C	C	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C
工程		C	B	C	B	C	B	B	B	C	C	B	B	B	A	B	B	C	
品質・出来形		B	A	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	A	B	B	C	
安全性		C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	C	C	
施工性		B	B	C	B	B	B	C	C	C	B	B	B	B	A	A	B	C	
環境		B	C	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
その他																			
総合評価点	C	B	C	B	C	B	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	C	C	
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定			A	従来技術より極めて優れる		
	-			75% [3件/4件]			25% [1件/4件]			-			B			従来技術より優れる			
													C			従来技術と同等			
													D			従来技術より劣る			
追跡調査の必要性	評価において耐久性等の経過観察が必要な工法でないため、追跡調査は必要ない。																		
追跡調査	なし																		